R5 年 4 月 新聞記事（山陰中央新報）

令和５年４月５日（水）付　山陰中央新報

「一風亭」に若者集え

安来の交流施設 県立大生が活性化策

小学生向けイベントで、英語で絵本の読み聞かせをする島根県立大生たち＝3月29日、安来市安来町、やすぎ懐古館一風亭

島根県立大人間文化学部（松江市浜乃木7丁目）の学生が、安来市安来町の交流施設「やすぎ懐古館一風亭」に若者を呼び込む活性化策をまとめ、このほど市に提案した。子育て世代向けイベント開催と中学・高校生の学習スペース開設の2本柱。アンケートや実証実験でニーズをつかみ、実現に向けた課題と合わせて投げかけた。

県立大と市の包括連携協定に基づく試み。2022年6月にサテライトキャンパス「YASUGI未来アトリエ」が設けられた一風亭に着目した。当時の2～3年生6人が募集に応じて参加し、12月から取り組んだ。

3月下旬の実証実験のうち、子育て世代向けイベントは未就学児と保護者向け、小学生向けをそれぞれ開催。木のおもちゃで遊べるコーナーが好評だったという。絵本コーナーや机・椅子の整備などを課題に挙げた。中高生の学習スペース開設は1人で集中したい人と友人同士で教え合いたい人の席を分けた工夫が喜ばれたという。飲食用設備、午後8時まで開けるスタッフ確保などを課題に挙げた。

市役所で提案を受けた田中武夫市長は「使い方によっては十分活用できるという提案だった。今後、予算化して実現したい」と前向きな姿勢を示した。

子育て世代対策を担当した3年（当時）の高崎友理奈さん(21)は取り組みを振り返り「連絡の仕方など社会人として必要な力を身に付けさせてもらった。人と人のつながりの大切さも感じた」と学んだ様子だった。

（桝井映志）

令和５年４月16日（日）付　山陰中央新報

紙上ブックトーク

時には立ち止まってみて

信号の青は進め、赤は止まれですよね？　でも、『おうだんほどうのムッシュトマーレ』（香坂直・作、フィリケえつこ絵、小学館）が現れたら、信号が青でも止まらくてはいけません。友達に嫌なことを言ってその場から逃げたり、部活をさぼって遊びに行こうとしていたり…。

「これでよいのだろか」と、もやもやしながら信号を渡ろうとしているときに、ムッシュトマーレは現れます。そして、ムッシュトマーレは「あなたの心の信号は青ですか？　本当に渡ってもいいですか？」と問いかけてきます。

言ってしまったこと、やってしまったことは変えることはできません。でも後からできることはたくさんある。そんなことをムッシュトマーレは教えてくれます。

ムッシュトマーレが「止まれ！」と言っても止まらないものがあるんです。それは『まほうのなべ』（ポール・ガルドン再話・絵、晴海耕平・訳、童話館出版）です。

このなべ、呪文を唱えると、好きな時に、好きなだけオートミールを煮てくれて、好きなだけ食べることができます。食べることに困っていたお母さんと女の子。このなべが家にやってきてからは、いつでもおなかいっぱいです。

ある日、お母さんが、いつものようにオートミールをおなかいっぱい食べて、食べるのをやめようと思ったとき、呪文を唱えても、なべは煮るのをやめてくれません。お母さんは、止めるための呪文を忘れてしまったのです。女の子は家にいません。オートミールはどんどん鍋からあふれ、早く止めないと、大変なことに。最後どうなってしまうのでしょう。

こんな鍋があったら便利ですよね。でも呪文を忘れないようにしないと。

「止まれ！」と言われなくても、時には立ち止まってみるのもいいものですよ。『立ち止まってゆっくり感じる50の自然のものがたり』（レイチェル・ウィリアムズ文、荻野哲矢・訳、化学同人）には、立ち止まってしか見ることができない50の自然の物語が描かれています。テントウムシが空に飛び立つとき、葉っぱの上の朝露、夜空に光る流れ星などなど。日本では見ることのできないものもありますが、この本を見ているだけで、自然を感じゆったりとした気持ちになります。

４月に入って、慣れない環境の中、一生懸命前へ前へと進もうとしている人も多いのではないでしょうか。時には、立ち止まって、周りを見渡してみると、何かごほうびが待っているかもしれません。

（尾崎智子・島根県立大学松江キャンパスおはなしレストランライブラリー司書）